

保護者の方へ・・・必ずお読みください 

ロタワクチン予防接種説明書

※ ロタウイルスによる胃腸炎とワクチンについて

ロタウイルスは、主に5歳未満の乳幼児に多くみられる急性胃腸炎の原因ウイルスです。主な症状は下痢・嘔吐・発熱などで、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全を、まれですが急性脳症等を合併することがあります。年齢にかかわらず何度でも感染発症しますが、乳幼期での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれて軽症化していきます。

ワクチンは、口から飲むワクチンで、ヒトロタウイルスを弱毒化した経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン（ロタリックス）と、5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン（ロタテック）があります。いずれのワクチンも、ロタウイルス感染による胃腸炎を約80%予防し、重症ロタウイルス感染症の約95%を予防する効果があります。

腸重積症の好発時期を避けるため、いずれのワクチンも初回接種は生後14週6日までに完了することが望ましいとされています。

※ 対象年齢・接種間隔について

2つのワクチンは接種回数異なります。最初に受けたワクチンと同じ種類を接種してください。（原則として同一製剤により接種を完了する必要があります。）

	対象年齢	接種時期	接種回数	接種間隔等
ロタリックス (1価)	生後6週に至った日の翌日～ 生後24週に至る日の翌日まで	初回接種は、生後2月～ 生後14週6日	2回	27日以上の間隔をおく
ロタテック (5価)	生後6週に至った日の翌日～ 生後32週に至る日の翌日まで		3回	

※ 接種後の副反応について

特に初回接種の1週間以内に、腸重積症を発症するリスクが上がります。接種後に、周期的な不機嫌、腹痛、反復性の嘔吐や激しい泣き、血便のうち1つでも認められたときは、腸重積症の可能性を考え、速やかに診察を受けるようにしてください。

予防接種を受けるときの注意事項

予診票

「予診票」は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。

接種を受ける方の保護者が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかに発熱（通常は 37.5℃以上をいいます）をしている人
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ 予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ これまでに腸重積症になったことや、治療を完了していない先天性消化管障害がある人、重症複合型免疫不全症（SCID）を有する人
- ⑤ その他、医師が不適当と判断した人

接種前に医師（かかりつけ等）とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
- ② 過去に予防接種で、接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人、及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑤ 卵の成分、抗菌薬、安定剤などにアレルギーがあるとされたことがある人
- ⑥ 活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害のある人

接種を受けたあとの一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関(施設)でお子さんの様子を観察し、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ② 予防接種を受けてから約 1～2 週間は腸重積症のリスクが通常より高まる可能性があります。腸重積症の症状としては、「突然はげしく泣く」、「機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す」、「嘔吐する」、「血便がでる」、「ぐったりして顔色が悪い」などがあります。
- ③ 健康状態や体調の変化に注意してください。高熱、けいれんなどの異常な症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。

予防接種による健康被害救済制度

定期的な予防接種による重篤な健康被害（障がい等）が発生した場合は、予防接種との因果関係が認定された場合に、健康被害救済制度が適用され、国の定める医療費や医療手当等の給付を受けることができます。給付申請の必要がある場合には、下記までご相談ください。



お問い合わせ先

山口市保健センター	TEL 083-921-2666
小郡保健福祉センター	TEL 083-973-8147
秋穂保健センター	TEL 083-984-8031
阿知須総合支所内 健康づくり・母子健康サポート阿知須担当	TEL 0836-65-4211
徳地保健センター	TEL 0835-52-1114
阿東保健センター	TEL 083-956-0993